

■ 日漢協トピックス



「栽培技術研修会合同 薬用作物の産地化に向けた説明会・相談会」を開催

2023年12月5日(火)、6日(水)の2日間にわたり、薬用作物産地支援協議会(薬産協)の主催で薬用作物の栽培技術研修会および産地化に向けた説明会・相談会が松本市において開催された。

まず、1日目(5日)に開催された栽培技術研修会は、生産団体や自治体等、様々な職種の方々が、23名参加された。

参加者は、同市の安曇野みらい農園において、生薬のシャクヤクやカノコソウの栽培農園を見学し、同農園の奥原聖人先生や薬産協の兀下敏幸氏による栽培技術に関するレクチャーを受けた。

参加された方々は、実際に収穫されたカノコソウの現物を手にし、興味深く観察したり、においを嗅いだりと五感で生の生薬に触れる体験を味わっていた。



【カノコソウに関心を寄せる参加者】



【奥原先生の説明に耳を傾ける参加者】



【兀下氏の説明を聞く参加者】

2日目は、場所を松本商工会議所に移し、ハイブリッド形式にて説明会が開催され、会場に30名、リモートで21名、計51名が参加された。

会は冒頭、農林水産省 農産局 果樹・茶グループ 課長補佐の福田 智之先生がリモートにてご挨拶された後、下記の内容にて進められた。



【説明会会場の様子】

- 生薬国内生産検討班 小柳 裕和 班長
「薬用作物の国内生産拡大の取り組み」
- 薬産協 兀下 敏幸 氏*
* 予定されていた地域特産物マイスターの古木 益夫先生はご都合により欠席、同氏が代理説明
「カノコソウの来歴及び栽培の実際」
- 富山県薬事総合研究開発センター薬用植物指導センター
田村 隆幸 先生
「富山県におけるシャクヤク栽培の実際」



【小柳 裕和班長】



【兀下 敏幸氏】



【田村 隆幸先生】

その後、休憩をはさみ、前日の研修会参加者の中から17名の希望者を対象に情報交換会が実施され、カノコソウなどの栽培事例の紹介や課題の検討等、活発なディスカッションが交わされた。

今回をもって、薬産協による薬用作物の産地化に向けた今年度の一連のシリーズは、終了を迎えた。

薬産協は、今後も薬用作物の産地拡大に向け、生産団体等と実需者とのマッチングを図るべく、精力的な活動を継続していく。



【松本商工会議所近くにそびえる松本城】



【情報交換会の様子】